



Issue on June 1, 2015

丸ころ

VOL.45

発行所：大森学園同窓会
 大田区大森西3-2-12
 大森学園高等学校内
 お問い合わせ：TEL 03(3762)7336(代)
 FAX 03(3766)0314
 Mail：info@moriko-kai.jp
 URL：http://www.moriko-kai.jp/
 発行責任者：大谷正勝
 編集責任者：広報委員会
 題字：山崎正男先生

大森工業から大森学園へ 普通科設置10周年

普通科第一期生

本間聖也

平成二十年三月卒業

大森学園に普通科が設立されて十年というところで今回このような依頼を頂き、改めて十年という月日が早く感じております。私が入学した頃はまだ現校舎は建設途中で旧校舎を使用していました。工業科のクラスとは少し離れた場所にあり、生徒数も十名と少なく寂しい思いもしましたが、同級生同士とても仲が良く、非常に団結していたように感じます。普通科の一日は朝のリスニングから始まり、寝ぼけまなこに英会話を聞いていた記憶があります。そんな普通科一期生として、先生方も熱心に授業をしてくださっていたのを思い出します。私は、部活動で野球部に所属し文武両道に苦勞することもありましたが先生方には授業以外の時間でたくさんサポートしていただきました。特に、部活動を引退した夏休みからは個室でマンツーマンで勉強を教えてください、大変感謝しております。担任の石川先生はじめ、野球部の和泉先生、伊能先生など勉強以外にも大変お世話になりました。このようなご縁で現在は学生時代からの目標であった運動指導者(トレーナー)の仕事につき、大森学園野球部のトレーナーとして携わらせて頂いております。週一回学校に伺っておりますが、私が学生だった頃とは違い、夜まで学校に残り勉強をしている生徒が多くビックリさせられます。学業・部活動の環境は非常にすばらしい学校ですので、

後輩の皆さんは自分の進みたい夢・目標に向けて、全てにおいて全力で頑張ってくださいと思います。

普通科共学第一期生

宮川 祐子

平成二十二年三月卒業



2010卒業アルバムより

大森学園普通科設立十周年おめでとうござ

ざいます。大森学園を卒業してから、あつという間に五年という月日が経ちました。高校二年生のときに、数学の教員という仕事を目標にした私は、現在、東京の私立女子校にて数学の教員として働いています。私は、大森学園の女子生徒の二期生として入学しました。最初の頃は不安ばかりでしたが、慣れていくにしたがって、大森学園の生活がとても楽しいものになりました。部活動

では、女子向けの部活動がなかったので、ダンス同好会を作っていただき活動を始めました。先生方の協力によって体育祭・学園祭・野球部の応援・老人ホームなど、たくさんの発表の場があり、とても充実した活動を送っていました。現在も、チャアリーディング部と名前は変わっていますが、活動が続いていることをとてもうれしく思います。

当時の自分を振り返ってみると、決して良い生徒ではなかったと思います。先生方と廊下ですれ違えば、スカート・ボタン・リボンと三つセットの注意を受けてばかりでした。教員となった今では、先生方の注意一つが私たちの将来のことを考えた上での言葉であったと思ふことができます。将来の自分が恥ずかしくならないように、まだ失敗が許される高校生の間しっかりと学ぶことが大切だと感じています。

教員を目指してからは担任の山口伸先生のもと、クラス全員で団となってそれぞれの目標へ向け勉強をしていました。放課後も授業や部活が終わった後、SSCに遅くまで残って勉強をするようになりました。最初の頃は言われたままに勉強をしていた私ですが、だんだんと進んでSSCで勉強をするようになり、大森学園での生活サイクルになっていきました。私一人ではできなかったことだと思います。友達も頑張っている。負けたくない。一緒に頑張りたい。お互いにそう思える友達がいたというのも大きな事だと思います。今後もその時の気持ちを思い出し、努力していきたいと思ひます。

中西優香

平成二十二年三月卒業

八年前のちょうどこの時期、大森学園高等学校のその体育祭と言う舞台上、私の世界は大きく広がりました。

小説の物語

様な高校生活に憧れつつ、そんな期待とは裏腹に、自分の身には特別な事なんて何も起こらないのだからと決め付けていた私にとつて、体育祭実行委員の活動はたくさんの中で頼られる喜び、自らが考えて仕事をこなす楽しさを知るきっかけとなったのです。この出来事に関してはこれまでにも何度か書いてきましたが、私にとつてはあまりにも鮮烈で、思い返せばやはり一番に甦る思い出なのです。



当初、私は自分の好きな放送の仕事さえ出来ればそれでいい、流れにまかせて与えられた事だけを真面目にこなせばいいと言った気持ちで委員会の集まりに挑みました。しかしそこには形式だけの無気力な雰囲気は全く無く、積極的に体育祭を作り上げる先輩方の姿がありました。私も先輩方と同じ様になりたいと強く感じました。そこから私の高校生活に対する意識は一変し、生徒会会長をはじめとする様々な活動に挑戦していく事となったのです。入学の前後の頃には

想像も出来ない程、私にとつては特別な出来事が幾つも起こりました。

こんな風に当時は語る私ですが、後悔ももちろんあります。ですがその後悔もあるからこそ、今の私があるとも考えています。大勢の先人の言葉にもありますが、在校生の皆様には、こだわりを持って自分らしく輝く日々を送り、もし卒業後に後悔が出来たとしても、それをも力に変えて貰えたらと思います。

私は今も自分のやりたい事をなすべくもがいています。大森学園で培った力や感じた事を生かし、そして出逢いを心の拠り所に、これからも勇往邁進、私は憧れの夢を叶える事を諦めません。

佐々木拓哉

平成二十二年三月卒業

普通科設立十周年、おめでとうございませす。卒業生として心より嬉しく思います。

私が入学した年は、男女共学になって二年目の年でした。設備の整った校舎。親身になって相談ののつてくださった先生方。そして、苦楽を共にしたクラスメイトとの思い出は今も色濃く私の中に残っています。

三年間の中で特に印象的だったのは、毎年大井の競技場で開催されていた体育祭です。クラスのカラーが全面に出た渾身のデザインTシャツを身にまとい、一喜憂したあの時間は学生生活の象徴のように思います。長距離離走で次々と抜かれていく中、クラスメイトの声援が完走の力を与えてくれた三年の体育祭は今でも忘れられません。

また勉強に関しても、多くのことを学ばせていただきました。各教科における知識はもちろんですが、何よりも私にとつて勉強となったのは、学ぶことの楽しさです。お世辞にも勉強が好きだったとは言いがたい身ですが、二年生の最初のテストではクラスメイトと放課後に残って教科書のページをめくっていました。中学で取れなかった点数が出た時はやはり嬉しかったですし、自分自身にとつて大きなモチベーションとなりました。目標へ向かって一緒に進んでくださる先生や友人に恵まれたことと感謝しています。

恩師から読書の楽しさを学んだことを受け、大学では出版文化について学びました。そして現在は、紳士服の販売員として、ご来店いただいたお客様に最大限のご満足を提供できるよう努力しています。大学生、社会人と環境は変わりましたが、相変わらず勉強の日々が続いています。

大森学園で過ごした三年間は、学ぶことの楽しさというかけがえない財産を残してくれました。

在校生の皆様。そして、これから入学してくる皆様にとつて大森学園が人生の道標となるよう、さらなる発展を祈念しております。

高橋美紀

平成二十二年三月卒業

私は、普通科女子一期生として、大森学園に入学しました。初めは、男子生徒の多さに戸惑いましたが、女子の人数が少ないこともあり、すぐに仲良くなり打ち解けました。

二年生のときはまだまだ受験も意識せず、入学当初のような緊張感も少しずつなくなり、毎日学校生活を楽しんでいたのを覚えています。

一番思い出深いのは三年生です。大学受験は初めからするつもりでしたが、私には全く自覚がなく、毎日だらだらと過ごしていました。夏休みには、ほとんど毎日学校に行っていました。ただ行くだけでやる気が伴いませんでした。この時、もっと勉強しておいたらよかったと今でも後悔しています。

結果的には、私は実力以上の大学に進学できたと思っています。先生方のおかげでやっとなかたと思えます。大学の合格通知を見たときの気持ちは今でも忘れることができません。嬉しいというよりも初めは驚きが大きかったものです。あまりの感動が自分の思いをささせていたのかもしれない。

今でも当時お世話になった先生方には感謝の気持ちでいっぱいです。受験に際してはもちろん、体育祭や学園祭に象徴されるように、生徒が楽しく充実した学校生活を送れるよう全力でサポートしてくださいました。卒業してもう五年以上が経過していますが、今でも大森学園に入学して本当によかったと思っています。私たちの頃はあまり多くなかった女子が、これからどんどん増えてくることを楽しみにしています。

普通科十周年、おめでとうございませす。

普通科卒業生便り

横山 日和子

平成二十三年三月卒業

普通科設立十周年おめでとうございます。

平成二十二年卒業の横山日和子です。高校三年間女子バスケットボール部に所属し、とても充実した毎日を送りました。

「一、二年生時にはテスト期間しか利用しなかったEステーション（現SSC）でしたが、受験生になってからは朝早くから夜の九時頃まで毎日利用していました。Eステーションにいらつやる先生方のほかに、大森学園高校の先生方にもわからない問題や科目ごとの勉強方法など疑問が出たらすぐに質問していました。また、進路については担任の先生はもちろん、それ以外の先生方にもたくさんご相談させて頂きました。どの先生方も親身になって聞いて下さいました。最終的に進路が決まったのは二月の後半で、何度もうけそつになりましたが先生方の助言や支えで無事に合格を頂けたのではないかと思います。

大学では資格を取得するため多くの授業や実習があり、私の思い描いていた大学生活よりもはるかに大変でした。しかしそれを乗り越えられたこと、その中で新たな学びを得たこと、そして大学生活を楽しむことができたのは、大森学園高校で過ごした日々があったからだと思います。

私は三月の末より思い描いていた幼稚園教諭論として働かせて頂いております。毎日たくさんさんの学びと発見がありとても充実した日々

を過ごしています。社会人となり、新たなスタート地点に立ちました。これまでの辛いこと、悲しいこと、楽しいこと、嬉しいこと、すべてが自分の糧となり無駄なことは一つもありませんでした。お世話になった先生方、友人、先輩、後輩、そして家族に感謝の気持ちでいっぱいです。

最後になりましたが歴史ある前身大森工業高校、現大森学園高校の益々のご発展をお祈り申し上げます。

各担任の思い出



普通科二期担任：石川 和弘

平成十七年四月六日、記念すべき普通科二期生の入学式。この日から大森学園高等学校普通科の歴史が始まりました。普通科二期生の三年間を写真を交えながら振り返つてみたいと思います。

■新入生オリエンテーション合宿

当時は入学式の翌日から千葉県県の宿泊施設で二泊三日の新入生オリエンテーション合宿が行われていました。全体会では学校生活

全般の勉強をし、HRでは自己紹介、クラス目標の設定など、高校生活に早く慣れるためにも有意義な時間でした。



■クラブ活動

学校生活が始まり部活動等にも積極的に参加してくれました。内訳は次の通りです。

- 陸上競技部2 レスリング部1 生徒会役員1 テニス部1 パソコン研究部1
- サッカー部2 野球部2 バレーボール部1

■定期試験

初めての中間試験、各教科から講評をいただきました。その中の一部を掲載させていただきます。

【国語総合（担当 尾形賢一）】

小学校から数えると、今年で国語の授業は十年目をむかえます。振り返ってみると小説、随想、詩歌、評論等の教材を繰り返し学習してきました。つまり、国語は学年が上がる毎に新しいことを学ぶという教科ではなく、教材の難易度は上がりますが繰り返しながら理解を深めていく教科なのです。（中略）国語の学習において何が大切なのでしょう。答えを導く課程が大切なのです。なぜこの答えになったのかを説明出来るようになることが大切なのです。（中略）間違っ

ことに嘆くよりもなぜ間違ったのかに気づくこと」次回へのステップのための提言です。

■球技大会

当時は一学期期末試験後に球技大会が行われていました。我がクラスはバレー部の宮代を中心に勝ち進み一年生ながら準優勝をしました。



■新校舎

地上八階、地下一階。大森西地区に摩天楼のようにそびえ立つ新校舎。二学期からいよいよ新校舎での授業がスタートです。



■体育祭

〈一年次〉

総合得点88点（総合第6位・1学年第2位）

◇100m（山村）予選第1位・決勝総合

第5位

◇背中渡り（全員）1学年優勝

◇400m（黒田）総合第2位・1学年優勝



◇1500m(山田) 1学年第3位

◇障害物競走(福田・柳) 第2位と第3位

◇長縄跳び(全員) 53回 総合優勝

◇二年次◇

細かい記録は残っていませんでした。すみません。



◇三年次◇

実行委員長(山田)ソラン(節総指揮者(福田))最後の体育祭でした。見事総合第3位に輝きました。騎馬戦に出場せず、しかも10人での第3位ですから私は優勝に匹敵するのではとつぶやいていますが・・・。

◇400m(黒田) 優勝

◇100m(山村) 第3位

◇百足競争 第3位

◇クラス対抗リレー 第5位

◇長縄跳び 80回



■修学旅行

三泊四日の沖縄修学旅行。良い思い出になったようです。



■強歩大会

記念すべき

第一回強歩大会。男子8km、女子5kmです。わがクラスは、なんと学年優勝ーみんなの頑張りで勝ち取った栄光です。これから毎年行われていくと思います。



■卒業

一人一人にメッセージを贈りました。果たして彼らはどのようにそのメッセージを受け取ってくれたでしょうか。普通科二期生の担任とすることで数々のプレッシャーがありました。

それをねのけるために、様々な新しい取り組みを行ってきました。皆が卒業して七年が経ちます。皆それぞれのステージで頑張っていることと思います。君達が刻んだ第一歩があり、今の普通科があります。そのことを胸に刻み、一生の誇りとして更なる精進を重ねて下さい。



共学二期担任・山口伸

平成二十二年三月、大森学園高校初の普通科共学の生徒たちが卒業しました。その卒業生のうち、私のクラスには理系の32人がおりました。現在、彼女らは、学校の先生、航海訓練所の教官、大学院でウミガメの研究をしている研究者など、社会で活躍しています。

初の共学の担任の苦勞と云うより、普通科の生徒たちをどうやったら本気で受験勉強に向かわせ、本当に行きたいと思う大学に進学させられるかの闘いでした。また、この生徒たちが担っている大森学園の期待にも気づかせる必要がありました。

私はそれまでは総合技術科の担任をし、本気で大学に向かわせる指導をしていまし

た。平成二十年四月、初めて普通科共学クラス三十人に出会った頃の彼女らは、勉強をしたことがない、嫌な勉強には絶対に手をつけない、三十分間机に向かつていられないなど、目にしたのは今の共学の大森学園の生徒とは比べものにならないほどの学びとはかけ離れた惨状でした。ちょうどその頃学校は、普通科の生徒たちに学びの空間を、二階の図書室にeステーション(現在は進学支援センター)を設置しました。しかし、勉強する場所は出来ても勉強する生徒はほとんどいませんでした。机に向かわせるために、私たち教員は様々な手を打ちました。宿題の提出は当日の夜八時、日曜日にテストを行う、夏期講習は早朝七時から夜八時までなど、今から思うと呆れるほどのことを押し付けました。生徒にとっては相当迷惑なことだったことでしょう。三年になった頃にはやとと将来を見据え、何時間も机に向かわせるようになりました。他の進学校には考えられない『手とり足とり』で勉強に向かうことを教えてきたことを思い出します。

あれからたったの五年しか経っていませんが、現在の大森学園高校普通科の生徒たちはよく勉強するようになりました。新入生たちもすでに進学支援センターで何時間も机に向かっています。在校生たちは、勉強に向かう先輩たちの背中を見て、自分たちの進路を真剣に考える。大森学園にはそんな学びに向かう空間が出来つつあります。その礎を作ったのが、正しくあの頃の普通科共学二期生だったのです。



共学二期担任：三浦圭

「何人くらいの女子が入学してくるだろうね。」大森学園初めての女子生徒を迎える前の年、何人かの先生と話をしていたのを覚えています。二年生・三年生が全員男子という中に入学してくるのです。「想像もつかないね。」と言いながらも、まさか五・五名もの女子生徒を迎えることになるのは、驚きを禁じえませんでした。私が担任したクラスは三九名中一九名が女子で、ほぼ半分。それまで他校（共学）で担任してきたクラスの方が、女子の人数は少なかったのです。まあ、クラスの生徒たちからすれば、それが普通だったでしょうけれども。

とは言え、およそ千人の在校生の中に五二名の女子です。割合としてはとても小さいです。さぞかし目立たない存在だったのでは？いえいえ、積極的に元気いっぱいの女子が大勢いましたので、実際の人数よりずっと多く感じられました。例えば、体育祭での二年生の集団演技。「ソーラン節をやらせて欲しい、みんなには自分たちから説明する。」と、体育の先生を説得したのは女子でした。バスケット

ボールやバレーボール、ダンスなどの女子の同好会を発足させたのも共学一期生。大森学園初の女子生徒会長も、女子体育祭実行委員長も、共学一期生から出ました。そんなエネルギッシュな女子に押され気味だった男子…なんて言ったら男子生徒が怒るかな。

卒業してから一度、同窓会に呼んでもらいました。今通っている学校の話や就職活動の話など、男子も女子もたくさん話しました。卒業文集には『まあ、よく怒られた』なんて書いてあったけれど、みんな素敵な男性・女性になっていました。今では二十三、四歳になるのですね。辛いこともあると思いますが、みんなの周りにたくさん応援してくれる人がいて、前向きに人生を送っていることを祈っています。



共学二期担任：蓑毛伸哉

平成二十二年度卒業生の三G三諸君。そう、あれは女子一期生の卒業学年。あの頃は二年間君たちを担任し、君たちは私のもとで過ごした。このことは私たちにとつてのかけがえない事実だ。いろんなことがあった。君たちは私をいっぱい悩ませてくれた。(双

方) 髪の毛のことで悩ませてくれた。化粧のことで悩ませてくれた。スカートのことで悩ませてくれた。そして勉強をしないことで悩ませてくれた。更には人様の前ではとても言えないようなことでも大いに悩ませてくれた。その他いろいろなことでも悩ませてくれたと確信しているが、思い出せないのだからいたしたことではないのかもしれない。同程度に、君たちは私の感覚についてくるのに骨が折れたことだろう。つまらないギャグや勉強のことはかり言うのだから辟易もするだろう。耳障りの悪いことも平気で言っていたと思う。ただ君たちのことを本気で思えばその良薬だったのだから寛大な心で赦してくれ。しかし君たちは実は立派だった。学園祭ではクラス単位としては珍しく書道展を開催して成功を収めたではないか。無礼にも私の顔に見立てた鈴カステラを作って販売し、どんな手を使ったのか随分な収益を上げていたではないか。そして、慌ただしく時が過ぎゆく中で、君たちは自分の行き先を決めていつの間にか私のところから去っていった。この「慌ただしさ」の中での束の間の進路指導は汗顔の至りだが、それでもその後の君たちは更に立派になった。私の饒の言葉を忠実に守って「いいことがあったら連絡を」くれたメールや電話によれば、学祭で大学の顔として頑張った子もいるじゃないか。いろいろな大学の多くの学生をまとめてボランティア活動を取り仕切った子もいるじゃないか。専門学校の発表会で代表を務めた子もいたじゃないか。立派に就職もしているじゃないか。そして結婚式に招待してくれた子もこれから招待してくれ

る子もいるじゃないか。この上なく嬉しいことだ。それもこれも君たちが周りの人に恵まれているからだ。大森学園高等学校で三年間を過ごせたからだ。そして一人一人が自分の理想を目指して頑張ったからだ。そこまで立派になる過程も本当を言えば見てみたかった。そういえば、卒業を祝して君たちに「プレゼントした色紙のことを覚えてるか。まだ持っているのだろうか。あの時は君たちに謙虚な気持ちの大切さを伝えた。思いは今でも変わらない。これからも人と奥ゆかしくあつてほしい。もちろん私もそうなるように努力する。そしていつの日か、またみんなで会いたいものだ。その日が来るのを楽しみに、しばらくはまたそれぞれの世界で頑張っていく。そしてこれからも君たちと私が共に過ごした母校の発展を見守ってほしい。

訃報 森弘さんを偲んで

同窓会元副会長 森 弘様は、平成二十六年六月、八十三才にて永眠されました。

昭和四十二年より平成八年まで副会長として長年にわたり、同窓会の発展に尽力されました。

ここに謹んで哀悼の意を表わすと共に、御冥福をお祈り申し上げます。

四月二十三日

菊池良幸

もりこう会活動を
一緒にしませんか



会長 大谷正勝

同窓の皆様には、ご健勝でご活躍のことと拝察致します。

母校は工業高校として、永年地域社会や工業界に多くの人材を送り出しておりますが平成十七年普通科（入学対象男子）の新設に伴い、これを機に永く慣れ親しんだ校名、大森工業を大森学園に改めました。引き続き普通科は二年の後に共学となり、今日母校は工業科、普通科を擁する総合学園へと発展しておりますことは、皆様ご存じのことと存じます。

私は昭和三十年代に学んだひとりですが、共学当初、役員会等で母校を訪ね、ロビーや廊下等で女子生徒に遭遇しますと、不慣れゆえに少なからず緊張したことを覚えております。このことは一笑をかう思い出ですが、当時同窓諸兄のなかにも同様の体験をされた方がおられたのではと、推察する次第です。

今では共学の年輪も重なり、男女生徒が仲良く机を並べ学習する姿や談笑風景を、あるいは体育祭や学園祭等で互いに協力して、ときには競い合って活動する姿を見るたびに、伝わる温かさや穏やかさから、これが共学ゆえの良さなのかと感じ入る次第です。この雰囲気は生徒の皆さんすべてに、様々な面でプラスに作用しているのではと想像しております。

母校が大きく舵を切ってから十年、共学となつて八年が経ちました。この間学科を問わず先生方には何かとご苦労があったことと推察いたします。お聞きするところ、生徒の皆さんは先生方の期待に良く応え、樹木が枝葉を付け花や果実をつけるが如く、着実に成果を積み上げておられるとのこと。同窓の一人として誠に喜ばしく母校の発展を誇りに思うところであります。

いま「もりこう会」以下本会と云う「」では、学園のこの新しい環境のもとで学び、本会員となつた若手の方々の期待にもお応えできるよう、さらに魅力のある同窓会つくりを目指す、腐心しているところであります。その第一歩は、感性豊かな若人の皆さんに同窓会に関心を持ってもらい、活動に積極的に参加いただくことだと思つています。

若者の斬新な発想を持ちより活動を盛り上げて下さい。我こそはと云う方、男女を問わずお声をかけて下さい。皆さんからのご連絡を、役員一同心よりお待ちしております。最後になりましたが、会員各位には引き続き母校大森学園ならびに「もりこう会」へ温かいご支援とご協力を賜りますようお願いいたします。

い申し上げ、ご挨拶といたします。
連絡先…もりこう会事務局
TEL: 03-3762-7336

『学び直し』



校長 畑澤正一

「もりこう会」の皆様には日頃より大森学園高等学校の教育にご理解ご協力をいただき感謝申し上げます。今後も本校の教育向上のため卒業生の方々の多大なるご支援を期待するところであります。

安倍総理が開催する教育再生実行会議より、第六次提言が出された。十分な議論が尽くされないうちに次々と提言が出され、文科大臣の進め方にも問題があり、高校の教育現場は大いに混乱状態にある。何が何でも否定するわけではないので、今回は第六次提言について少し触れたい。三月四日の「学び続ける社会、全員参加型社会、地方創生を実現する教育の在り方について」の中で、「高校や大学等の卒業までに学んだ事で生涯通用する

時代は既に過去のものとなった」として、社会に出た後も誰もが学び続け、その成果を社会で生かし、何歳になっても夢と志のために挑戦できる社会の実現が極めて重要であると指摘。それを踏まえ文科省は社会人の「学び直し」に資する実践的・専門的な教育プログラムの在り方等を考える検討会を立ち上げ、「職業実践教育プログラム（仮称）」制度を創設する。

同省によると大学院や大学、短大、専修学校等で学び直しをしている社会人は現在、十二万二千人を数える。社会人特別入学者選抜、夜間・昼夜開講制、科目等履修生制度、通信制、サテライト教室、大学公開講座等の仕組みがあり、社会人を対象にした学位取得を目的としたコースを設置している大学院は増加傾向にある。職業能力開発センターの調べでは、社会人の89%が再教育に「受けたい」「興味がある」と回答。

少し横道に逸れますが、国民的有名人の欽ちゃん（萩本欽氏）が駒澤大学仏教学部の社会人入試制度に見事合格し、七十三歳にして入学し四年間学ぶとのニュースがありました。そこで「ミハー」的な話になりますが、インターネットで学び直しを検索すると、古くはそのまんま東（東国原氏）が早稲田大学、プロレスラー大仁田厚氏が明治大学に学び、二人はその後皆さんもご存じのように政治家に転身しました。また元プロ野球の桑田真澄氏は早稲田大学大学院で修士号を取得し、現在は東大大学院で学び、横綱日馬富士は法政大学大学院で学んでいます。横綱日馬富士は相撲を取りながらモンゴルの国立法科大学

院通信課程で学び、弁護士資格を取得していることも知りました。驚きで、来場所から見方が変わりそうです。私の周囲にも学び直しをしている人がおられますし、卒業生の皆さんの中にも少なからずいろいろやるのではないのでしょうか。

英国の研究者の予測によれば、今後十〜二十年程度で、米国の47%の仕事が自動化される可能性が高いとされている。また、米国の研究者は、二〇二一年に米国の小学校に入学した子ども達の六十五%は、大学卒業後、今は存在していない職業に就くと予想している。この問題提起は、日本でも無縁ではない。現在存在している職業が将来自動化されたり、なくなったりした時、それに代わる新たな職業が創出されるのか。経済社会の変化や科学技術イノベーションの進展等により、新たな職業が創出される可能性もあるが、人工知能の飛躍的発展により頭脳労働までもがコンピュータにより代替される可能性があり、楽観的に考えることは出来ません。・・・と続きます。提言については気になる部分もありますが、『学び直し』をする人は今後ますます増加するでしょうし、企業や地域ですでに必要とされている現実があると思われまます。社会に出た後も、学び続けることにより、新たに必要とされる知識や技術を身に付けていくことが不断に求められる。また、仕事と生活の調和(ワーク・ライフ・バランス)の進展に合わせて、学びの機会をいかに社会に提供できるかが大きな意味を持つ、と提言しています。

徒弟学校から 工業高校へ



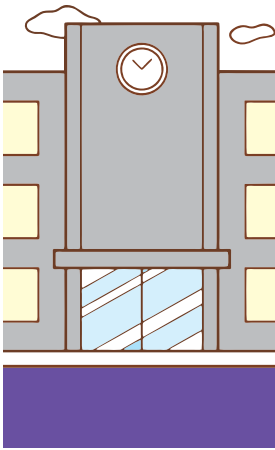
理事長 米澤正倫

本校の創立記念日は四月十五日でありましたが、私が勤めはじめた頃(昭和二十六年)は十月十四日(工業学校が文部省認可の日)でありました。何故変更されたのか記憶にありませんが。私学には、学校として認可され正式発足する以前に私塾教育があり、それを原点としている学校が多くあります。本校の場合も文部省認可の工業学校となる前に大森機械工業徒弟学校があります。徒弟学校は親許を離れた生徒達が安心して働き、そして学びが出来るように加盟工場と取り決めを行いました。「通学時間は勤務時間である。給料は働く工場が違っても同額である。等々」。生徒達は学校が同郷の友人に会える安らぎの場でもあったようです。しかし昭和二十年四月空襲により木造校舎焼失。加盟工場も殆んどが被災しました。八月十五日に終戦となり、我国の工業界は先の見

通しが無くなり、生徒は昼間・夜間とも退学激減し、理事役員・加盟工場は校舎の再建・学校の存続には否定的となり、私の父である前理事長米澤勇作が立場上記の難事を委ねられ、戦後の極度の物資不足、資金難の中、幾多の苦勞を乗り越え再建に取り組みました。再建された校舎は中古建物を移築したのですが、限らない愛着を持ち、空襲焼失した日を原点としたのかと思います。資金確保の為に自己所有の土地を売却せざるを得ませんでした。そのような折鬼頭美代志理事(鬼頭製作所社長)から融資のお話があり、私が中野島の会社に伺いました。父は大学同窓の方からの思いがけない御協力を頂き、大変感謝いたしておりました。

徒弟学校時代の安らぎのある雰囲気は時代が変り形が変っても受け継がれていると思います。昭和四十年代に校長を務められた早坂朝太郎先生は「以前私が校長として勤務していた都立高校を訪れたが、見知らぬ人扱いであった。大森工業高校は退職後何時来ても皆さんから暖い挨拶を頂く。気持ちが良い。」と話されていました。

この暖い挨拶・安らぎのある雰囲気は徒弟学校時代から現在に受け継がれている本校の徳性であると思います。



末吉 辰

同窓生の皆さんこんにちは。私も昭和四十五年に大森工業高等学校・機械科を卒業しました。当時の私は、母校で教鞭を執りながら野球部の指導者として現役部員に少しでも役に立つことができればと思っていました。そうした中、当時の監督の先生が他校に転任されることになりました。その後継として母校に勤務できる機会に恵まれました。



あの先生は今

そして四十数年の歳月が流れましたが、やはり一番大きな思い出としては昭和五十一年夏季大会において決勝進出ができたことです。この年の春季大会では東京第一トップの成績で夏の大会第一シードの権利を獲得しており甲子園出場の最有力候補として各マスコミにも大きく取り上げられ、学校だけでなく卒業生や地元、多くの人たちから激励のことがば期待を寄せられました。それに応えるため、自分たちの夢をかなえるため猛練習に励みました。土浦グラウンド・森ヶ崎・大井ふ頭・富士通・昭和石油・リコー・多摩川などの各球場で、そして冬場は日曜ごとに葉山の海岸を走りこみするというジブシー活動でチーム強化に取り組みしました。

「九回二死、一塁走者の川田君は三塁をねらって猛然と滑り込んだ。塁審の手が無情にもあがる。大森工は敗退した。ユラオームをべったり泥で染めた川田君は、その泥をぬぐおうともしなかった。泥まみれの感触をじっくり味わっているように見えた。」(朝日新聞記事の抜粋)

残念ながら甲子園出場はかなわず、準優勝という結果に終わりましたが、多くの人々から賞賛のことは頂きました。その彼らも、もう五十代半ば、OB会でも当時の話はよくですが、どちらかという現役部員の活躍に期待する会話となっていくます。

私自身も、学校でのクラブ顧問はすでに退きまして、外野から野球部の応援をしています。ただ野球自身からは離れては無く、都高野連の役員として大会運営に携わり大田スタジアムと神宮球場を担当しています。母校の後輩たちがプレーしている姿を間近で見ると目頭が熱くなることも度々あります。どうぞ、卒業生の皆様も後輩たちの活躍を御観戦頂ければ幸いです。

2009夏
末吉先生。解説者としてTV出演

平成21年7月25日(土)
この日神宮球場では東京第一大会の準々決勝、この準々決勝の解説者として末吉先生がテレビに出演。朝日新聞に付いた朝日新聞朝刊の朝刊でも解説。末吉先生は東京第一大会準々決勝の解説者としてテレビ出演。朝日新聞朝刊の朝日新聞朝刊でも解説。末吉先生は東京第一大会準々決勝の解説者としてテレビ出演。朝日新聞朝刊の朝日新聞朝刊でも解説。

大森学園の夏

新役員紹介

秋葉美典



昭和38年2月生まれ。大田区在住。昭和56年3月全日制機械科卒業。担任の先生は、加藤三郎先生でした。3年間サッカー部で活動し、3年生の時主将を務めさせて頂きました。現役時代地区選抜、東京選抜1次落選。社会人の時、FCジュエントス所属。23歳の時、社会人U-23東京選抜に選ばれました。日光警備保障株式会社に勤務。施設警備検定2級を取得し、本年12月で満25年になります。

現在、地域にてJFAD級指導者資格取得、洗足池FC・碑文谷FCにて非常勤コーチ登録。JFA3級審判員資格取得、東京都アクティブ審判員登録等活動させて頂いております。

本年1月より大森学園サッカー部にも顔をださせて頂いておりチーム強化に貢献できれぱと思っております。昨年より「もりこう会」総務委員としてお役にたたさせて頂いておりますが、まだまだ

です。「もりこう会」を通じて学園を更に盛り上げて行けるよう更に貢献させて頂きたく努めて参る決意です。皆様、宜しくお願い致します。

丸山 広



この度同窓会役員に就任させて頂きました。昭和57年電気科卒業の丸山です。在学中担任でした青木宏行先生が早くしてご逝去されたこともあり、クラス会も卒業後間もなく一度開催したきりで、母校を訪れる事もないまま30年以上もたつてしまいました。久しぶりに訪れた森工は森学となり私の記憶にある校舎はすでにつも残ってはいませんが、校長先生を始め当時の教科担任であった先生方がまだお元気で勤務しておられ、改めて母校を懐かしく思いました。校舎に入りますと元氣な在校生たちが気持ちよく挨拶をしてくれて、教室の中もきれいに整理・整頓されている。

「ああ、生徒の躰教育もきちんとされている。森工から森学にはなつたけれど温情豊かなもりこう精神は今も引き継がれている」と感銘を受けました。微力ではありますが、皆様のご指導ご鞭撻を賜りながらこの素晴らしい伝統を後世に引継ぐお役にたてれば幸いです。次第です。

もりこう会ならびに奨学基金へのご支援ご協力のお願について

会長 大谷正勝
役員一同

もりこう会には、日頃より温かいご支援とご協力をいただき、厚くお礼を申し上げます。

本年もここに関係各位のご協力により、会報45号をお手元にお届けすることが出来ました。

本会では、その他ホームページの運営、総会、懇親会の開催等など、様々な活動を通して母校の現況、卒業生間の交流、消息等をお知らせ致しております。

これからも、会報やホームページの活用と総会、懇親会などを通して、情報提供や各種の催しに積極的に取り組んでまいり所存です。今後とも、よろしくお願い申し上げます。

さて、本会では会報送付時、本会へのご寄付ならびに「潮の光」奨学基金へのご支援をお願いしておりますが、これに対して会員の皆様からは、毎年温かいご支援、ご協力をいただいております。ここに改めて皆様のご厚情にお礼を申し上げます。

就いてはこの度も、経済社会環境の厳しい折、誠に恐縮ではございますが、倍日のご支援ご協力を賜りますよう、役員一同心よりお願い申し上げます。

平成26年度 もりこう会 決算書

(自:平成26年4月1日~至:平成27年3月31日)

収入の部

科目	予算	決算	差異	摘要
①1年生会費収入	1,530,000	1,515,300	14,700	300円×12か月×420.9人
②2年生会費収入	1,198,800	1,187,700	11,100	300円×12か月×329.9人
③3年生会費収入	2,688,000	2,678,900	9,100	700円×12か月×318.9人
④寄付金収入	300,000	464,000	▲164,000	111件
⑤受取利息収入	15,000	5,025	9,975	普通預金・定期預金・有価証券
⑥過年度会費収入	0	0	0	
⑦雑収入	0	0	0	
当年度収入合計	5,731,800	5,850,925	▲119,125	
前年度繰越資金	6,845,129	6,845,129	-----	
収入の部合計	12,576,929	12,696,054	▲119,125	

支出の部

科目	予算	決算	差異	摘要
①設備補助費	0	0	0	
②行事補助費	200,000	150,000	50,000	学園祭補助として生徒会へ
③課外活動補助費	300,000	300,000	0	校友会へ
④クラス会援助費	100,000	10,000	90,000	1件
⑤卒業記念品費	0	0	0	
⑥その他の補助費	100,000	0	100,000	
①会報発行費	1,200,000	1,201,006	▲1,006	会報発行・印刷・郵送料含む
②総会費	400,000	363,424	36,576	懇親会費用
③OB広場	100,000	69,016	30,984	学園祭(同窓会広場費用)
④会議費	200,000	170,081	29,919	役員会開催費用
⑤ホームページ維持費	100,000	81,216	18,784	サーバー年間契約料
⑥交通費	300,000	218,000	82,000	役員交通費代
⑦事務局費	50,000	9,672	40,328	文具・切手代
⑧慶弔費	100,000	126,200	▲26,200	お祝い2件、香典4件、生花代1件、見舞い1件
⑨キャリアセミナー運営費	180,000	174,632	5,368	懇親会費
⑩拡大幹事会費	0	0	0	
⑪雑費	50,000	28,632	21,368	寄付金振込手数料他
予備費	100,000	0	100,000	
①同窓会維持積立金	500,000	500,000	0	
当年度支出合計	3,980,000	3,401,879	578,121	
次年度繰越金	8,596,929	9,294,175	▲697,246	
支出の部合計	12,576,929	12,696,054	▲119,125	



ご協力ありがとうございました

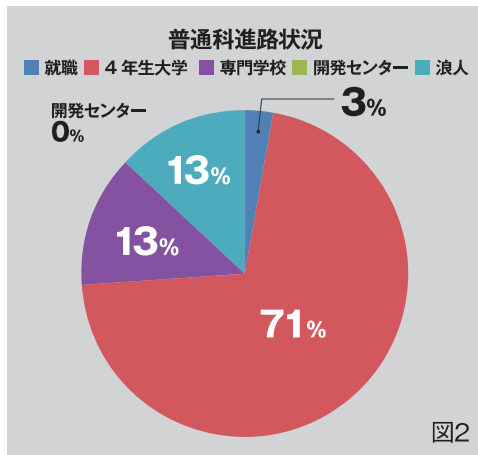
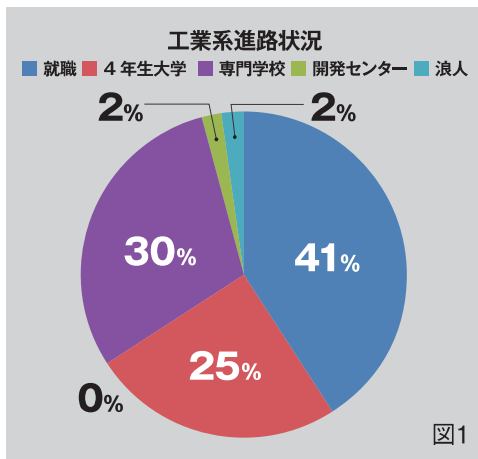
平成26年度進路報告

進路指導部長

石川和弘

もりこつ会の同窓生の皆様におかれましては、益々ご健勝で、各方面でご活躍のこととご推察申し上げます。進路指導部より、平成26年度卒業生の進路状況をご報告させていただきます。

昨年度は全体で318名が卒業しました。就職27%、4年制大学42%、専門学校24%という結果でした。工業科は19名の生徒が卒業しました。就職41%、4年制大学25%、専門学校30%という結果でした。(図1) 普通科は119名の生徒が卒業しました。就職3%、4年制大学71%、専門学校14%という結果でした。(図2) 主な進学先は表1をご覧ください。



昨年度は国公立大学(大学校を含む)に十名の合格者が出ました。過年度卒では静岡大学に一名合格し、いよいよ国公立大学合格者が二桁になりました。私立では初めての慶應ボーイが誕生しました。GMARCIHの数も年々増えてきています。就職では、機械関係でJFEエンジニアリング、日本冶金工業、ジャパンリユニティテッド、自動車関係で日産自動車、日野自動車、京浜急行バス、電気関係で関電工、寺岡ファシリテイズ、鉄道関係でJR東海、東京メトロ、京急鉄道施設(二十七年より京浜急行へ合併)、その他として日本郵便などへの合格者が出ています。

今年度も“生徒のための進路指導部”として、生徒たちの夢実現の手助けをしていきたいと思っております。

私立大学	文系	理系
早稲田大学		1
慶應義塾大学	2	
東京理科大学		3
学習院大学	1	
明治大学	2	
青山学院大学	3	
立教大学	3	
中央大学		1
法政大学	2	2
日本女子大学	2	
聖路加国際大学		1
北里大学		3
合 計	15	11

国公立大学	文系	理系
首都大学東京		1
東京海洋大学		1
埼玉大学		1
群馬大学		1
信州大学		1
山梨大学		1
静岡大学	1	1
愛媛大学	1	
国立看護大学校		1
合 計	2	8

表1

活躍したクラブ

男子バレーボール部

昨年度は関東大会予選で都ベスト16位という結果に終わり、惜しくも関東大会の出場権を手にすることができませんでした。今年度は関東大会に出場できるよう、日々練習に励んでいます。

平均身長がそれほど高いわけでもないのに、スピードあるコンピバレーを追求しています。



私学大会では2年連続でベスト8に入ることができ、その結果3月には全国私学大会に出場しました。これに満足することなくこれからも精進していきますので応援の程よろしくお願い致します。

また、一昨年度退任されました山下先生にも引き続きチームを見ていただいています。

OBOGの方々、練習への参加も心よりお待ちしております。

PS 男子バレーボール部のブログです。よかつたら見てください。

http://blog.soo.ne.jp/ojimesu/

昨年度の結果は以下の通りです。

関東予選	都ベスト	16位
私学関東大会Aブロック		8位
都私学大会夏	都ベスト	16位
都新人大会	都ベスト	16位
都私学大会冬	ベスト	8位
さくらバレー (全国私学大会場)	出場	
(2勝2敗)		

顧問 尾島 覚
須藤 健

野 球 部



野球部は平成26年秋季大会Aブロック予選で独協高校、紅葉川高校、小松川高校に勝利し東京都本大会に出場しました。本大会では一回戦福生高校に5対3、二回戦城北高校に6対1で勝ち、ベスト16となり3回戦で法政大高に延長12回惜しくも0対1で敗れましたが春のシード権を獲得しました。

シードとして2回戦から出場した春季東京都大会では工学院高校に5対1で勝ち、夏のシード権をかけて神宮第二球場で青山学院高校と対戦しました。2対3から9裏に追いつき3対3でこの大会から採用となったタイブレークとなりましたが、3対4で敗退しました。

部員も1年生を迎え100名を越え、OB会から寄贈していただいたピッチングマシンを活用しながら、夏の大会に向けて練習に励んでいます。

野球部OB会のお知らせ

7月4日(土) 18時より川崎日航ホテルにおいてOB会を予定しております。一人でも多くのご参加宜しくお願いします。



運動部

●剣道部

今年度は全部で12名という多数の新生を迎え、昨年度以上に活発に活動した1年となりました。新入生の多くは剣道未経験の初心者でしたが、上級生や有段者の新生による指導を受け、試合でも尻込みすることなく堂々と振る舞えるようになりました。今年度はIH予選に参加し、個人戦で主

クラブ活動報告

将が都大会に出場を果たしました。その他、秋季大会、支部大会、新人戦といった高体連の大会の他、大田区民大会にも出場しま



した。来年度は大所帯の学年が上級生となります。最上級生を中心として技術面、精神面で部員達に成長してもらい、今年度以上の結果を残すことができたらと思います。

●女子バレーボール同好会

今年度の6月に部員が6名そろい、8月に初めての公式戦を迎えることができました。6名そろったというものの、1年生は全員が初心者です。一方、2年生は全員が経験者です。試合に出られる喜びと試合に勝ちたいという気持ちで、2年生は一生懸命に1年生を指導してきました。来年度は試合も増えるので、まず1勝を目標にがんばっていきたいと思います。

●バドミントン部

バドミントン部は、昨年度男女38名で活動してきました。部員が増え、活動場所もイベントホールだけでなく、地域の体育館を借りるなど、皆で協力して活動しています。

大きな出来事としては、女子部員が6名となり、初めて団体戦に出場したことです。初出場にして高体連新人戦大会で3回戦に進出したことは大きな自信となりました。引退が近くなり、3年生の意識がさらに高まり、後輩に良い刺激を与え活動しています。男子は、高体連冬季ブロック大会団体戦II部で決勝トーナメントに進出しました。また、新人戦II部大会個人ダブルスにおいては2年生(加藤・木本ペア)が優勝しました。2年生も力をつけ、今年さらにはさらに期待が持てます。高校に入ってからバドミントンを始め

た者も成長しました。部員同、結果を出すことを目標に頑張っていきますので、今後ともよろしくお願い致します。

テニス部



平成26年度のテニス部は、3年生の引退まで約30名で活動しました。新1年生に経験者が多く、底上げが可能となりました。上級生や未経験者に対して良い刺激となり、日々努力し経験者と遜色ない選手も増え始め、クラブ全体への良い刺激となりました。今年度は経験者も多いことから、技術面に加え、生活指導面に比重を置きました。最後の団体戦では一回戦敗退、思うような成績は残せませんでしたが、集団としての成長も多少は図れた様な気がします。今年度も4月中旬から個人戦、5月中旬

には団体戦が控えています。過去最高の結果が出せるよう、1人1人の心身の成長を促していきます。今後とも皆様の応援、よろしくお願いいたします。

男子バスケット部

全学年で力を合わせ関東大会東京都予選(4月)、インターハイ予選(5月)で結果が残せるよう毎日練習に励んでいます。今年度は3年生中心のチームであり、仲間意識が強く切磋琢磨し、インターハイ予選で東京都ベスト64になることができました。応援を下さった皆様、ありがとうございました。応援をして来年度は本大会出場を目標に頑張りたいと思っております。



大会結果
関東大会東京都予選(4月)

2 回戦 大森学園 57×58 豊島学院
インターハイ予選(5月)

1 回戦 大森学園 93×42 東京農大第一

2 回戦 大森学園 87×73 錦城

3 回戦 大森学園 76×61 都立多摩上

4 回戦 大森学園 52×118 國學院大久我山

新人戦支部大会(10月)

1 回戦 大森学園 105×37 日出

2 回戦 大森学園 51×82 東京

顧問 山之井 義和
立田 史門

卓球部

イベントホールで週5日練習に励んでいます。今年の部員は3年が8人、2年生が4人、1年生が4人の合計16人の大所帯で活動していました。

今年度は練習メニューを大幅に変えて、東京都ベスト32を目標に日々の練習に取り組んでいきました。卓球マシンを有効に使い、きちんとしたフォームで打球できるように頑張っています。部員全員がやるからには勝ちたい、強くなりたいという向上心にあふれています。また練習メニューを生徒たち自身で改良するなどの工夫、個人の課題を見つけられたことが、大変喜ばしい成長です。

これからも、卓球を通して部員たちが成長して、よりよい人生を歩んでいってほしいと願っています。今後ともご支援の程宜しくお願い申し上げます。

レスリング部

昨年の主な試合の報告をします。

5月3日、関東大会都予選で3年生6名(中里仁、早野隆人、中村和暉、山口政宗、仁平滉哉、井智幸)が6月の本大会へ出場。女子は3年生2名(高橋海寿々、山口湖恋音)が会場。

11日 全国グレコ都予選で3年生2名

(中村和暉、井智幸)、1年生1名

(神和樹)が8月の本大会に出場。

6月14・15日 インターハイ都予選で、

3年生1名(井智幸)、1年生1名

(神和樹)が8月の本大会に出場

7月13日 東京都選手権兼国体予選で

3年生1名(井智幸)が会場。

8月2日 インターハイ女子

高橋海寿々 優勝



11月15日 東京都新人選抜選手権

個人対抗戦で一年生の名

(神和樹、熊谷響)が関東選抜に出場。

神和樹は全国大会へ駒を進めた。

以上が今年の流れです。

三年生引退後の新人大会団体戦は部員数不足で出場すら出来ませんでした。

昨年まで華々しく報告できた三年生も三月三日に全員無事に卒業しました。残る部員は新三年生1名、新一年生4名の5名でスタートしました。一年生も3名入り、日毎練習に励んでいます。更なる入部希望者を募集しています。

●女子バスケット部

【部員：16名】

3年生・8名 2年生・8名



【26年度大会結果】

関東予選・3回戦進出

VS都立文京に敗戦

夏季大会・ブロック第3位入賞 準決勝

VS都立つばさ総合に敗戦

新人戦・3回戦進出

VS成城学園に敗戦

昨年部員が増え活動日の幅を広げ、また大会参加により同好会から部に変わりました。今年度の一年生を迎え初めて3学年が揃います。戦績では3回戦の壁が厚いので突破できるよう練習に励みます。

●柔道部

26年度は1年生4名、2年生4名、3年生4名、体重も軽量級が多いメンバー構成となり、団体戦では他校との試合で非常に不利な状況になるチームでスタートいたしました。4月に行われる関東大会予選は先鋒

次鋒、中堅は73kg以下で構成しなければならぬという特殊な編成の団体戦です。軽量級主体の本校はこの大会を中心に考え、選手の本気勝負を高めていきました。団体戦では1回戦シード、2回戦駒場東邦に4×0で快勝し、支部予選ベスト8。東京都大会出場を決めました。個人戦では無差別級の3年生天久朝斗君が東京都大会進出を決め26年度は好スタートを切ることができました。

9月には東京都独自の大会である、学年別柔道大会が開催されました。この大会は3人制の団体戦であり、5人制の団体戦よりも1人にかかる責任が大きくなります。支

部予選では1年生、2年生ともに東京都大会進出を決めることができました。

11月に開催される支部新人戦では55kg

級に本校から1年生3名が出場いたしました。3名とも中学からの経験者で初段を持っています。出場した人数も少なかったのですが、3名が優勝、準優勝、3位と全員が入賞することができました。

軽量級主体のチームですが、粘り強さをさらに付け、強豪校とも対戦できる技量をつけ来年度も頑張っていきたいと思っております。応援よろしく願っています。

●陸上競技部

3年生4名、2年生8名の計12名で活動しています。少人数ではありますが、砲丸投・走幅跳・ハードル・中長距離・短距離に分かれ



日々自己記録更新を目指し練習をしています。また、チーム競技ではリレー・駅伝にも取り組んでいます。昨年度は、東京都支部予選会や支部競技会、全国高等学校駅伝大会東京都予選、東京都支部駅伝といった高

体連の大会の他に、大田区陸上競技大会や東京都私立学校陸上競技選手権、六郷グリーン駅伝などの大会に出場しました。400mハードルでは、東京都大会への出場を決めました。選手としてだけではなく、高体連の大会では競技者係として大会運営のサポートも行っています。今年度は、1名でも多く東京都大会で勝負することのできる選手が増やし、また、リレーなどのチーム競技でも東京都大会へ出場できるように頑張ります。今後とも応援をお願い致します。

●チアリーディング同好会

昨年度、チアリーディング同好会は3年生2名が中心となって活動してきました。同好会の核となるふたりが普通科特進コースの生徒だったので、普段は放課後や休日の限られた時間での活動となってしまいましたが、短い活動時間を最大限活用して練習に励みました。例年、活動内容としては7月の野球応援がメインとなりますが、平成26年度は4月の新入生歓迎発表会から始まり、6月の体育祭、9月の学園祭でもダンスを披露しました。行事の前には練習日や練習時間を増やし、その成果を本番でしっかりと出せたいと思います。

3年生の引退後はなかなか思うように活動ができず、今年度は新入部員だけで再出

発をするという状況です。まずは、野球応援に向けて振り付けや体力作りをするところから、少しでも完成度の高いものを披露できるように、練習に励みたいと思っています。精一杯頑張りますので、応援よろしくお願いいたします。

● サッカー部

現在顧問4名、コーチ6名のもと、3年生22名、2年生47名、1年生39名の生徒108名で活動しています。この春は第35回宇治招待に招かれ準優勝を果たしました。その後福井での強化大会を経て帰京し、4月末に迫った総体都予選に向けて更なるレベルアップを図っております。

京都・福井では東福岡、立正大浜南、富山、星稜、丸岡、福知山成美と全国大会優勝経験校を含め対戦して参りました。2勝3敗と負け越しましたが貴重な時間を過ごせました。これも学校や保護者の方、OBの協力あつての活動と感謝致しております。今年度より満を持して斉藤 幸男先生が顧問に復帰します。「幸男を西が丘で胴上げ!!!」をスローガンに必ずやOBの皆様が胸を張れる結果を残したいと思っておりますので応援宜しくお願い致します。

文化部

● 囲碁将棋部

平成二十六年度は一年生が一名、二年生が五名、三年生が三名と計九名で活動してき

ました。

主な大会は、将棋部門では春と秋に行われる全国高等学校将棋選手権大会東京地区予選の個人戦に全員がエントリーしています。将棋は、ほとんどが初心者で駒の進め方を知っているくらいでしたが、夏休みから詰将棋を始めるとめきめき上達し始め、大会でも何回か勝てるようになってきました。また、囲碁部門では一人三段を持つ生徒がいます、

東京都高等学校囲碁大会のBグループに参加しています。時間があるときなどは、異なるゲームをして気分転換をしたりします。いつでも和気あいあいとやっているクラブです。

囲碁将棋部では挨拶や先輩、後輩の上下関係などを理解させて社会でも通用する人になれるように指導していきたいと思っています。これからも、ご支援の程宜しくお願い申し上げます。

● 鉄道研究部

平成二十六年度は三年生 六名、二年生五名、一年生 五名の合計十六名の部員で活動しました。おもな活動内容として学園祭に向けた大型レイアウト製作やNゲージ車両製作、部員が持ち寄ったの鉄道模型運転会など、週三回の活動を積極的に行いました。とくに、毎年参加している、全国高等学校鉄道模型コンテストでは京急蒲田駅周辺を模型化し、上下線の羽田乗り入れホームの製作に時間を費やしました。結果は全国から百十校余りの参加作品の応募があり、毎年上位入賞を目指して製作していますが、思った以上の成績を上げる事は出来ませんでした。



た。ベストオブリアリテイ賞を戴きました。また、今回の夏合宿では京阪神地区の私鉄乗り放題プランと名鉄沿線取材する企画を立て実施しました。毎年、学園祭は大

型レイアウトによる運転会や生徒鉄道写真展示・鉄道グッズの展示発表などを中心に行っております。是非今年も、OBの皆様に来校を楽しみにしております。

(桐山記)

● 自動車部

● WORLD GREEN CHALLENGE 2014
ソーラーカーラリー (旧 W.S.P. 秋田)

8月10日(日)〜12日(火)に自動車部が秋田県大潟村で行われたソーラーカーレースに出場しました。1日約8時間を3日間走行する過酷な競技で車両・人にも耐久性が求められるレースです。今回、台風の影響でレースが大幅に変更され、大会は1日間だけになりました。

10周250kmを走行し全クラス総合4位、クラス3位入賞し表彰台にあがることができました。

- 1日目 台風により中止
- 2日目 台風により中止
- 3日目 10周
- 合計 10周 総合4位 クラス3位 入賞大会ホームページ

<http://www.wgc.or.jp/>

● 第9回かながわエコカー競技会

8月30日(土) 夏休みの終わりに日産自動車株式会社追浜工場 GRAN DRIVEで行われる省エネカーの競技会です。今年で3回目の出場となります。

- 参加台数 20台
- 527km / ℓ 2位 横須賀市長賞
- 464km / ℓ 3位 日産自動車賞

大会ホームページ

http://www.geocities.jp/ecocar_race/



●Honda エコマイレージ チャレンジ 2014

9月27日(土)・28日(日)に今年も自動車部が栃木県宇津川リンクもぎサーキットで行われたエコマイレージチャレンジ『1のガソリンの走行距離を競う』に出場しました。今回の大会で学校として28回目の参加になります。今回もオリジナルの燃料噴射制御装置をつけ大会に臨みましたが、噴射装置の調整が思うようにならず、記録を伸ばすことができませんでした。

グループII 高校生クラス 151台中
920km/ℓ 26位(キャプレータ)
697km/ℓ 36位(インジェクション)

大会ホームページ
http://www.honda.co.jp/Racing/emc/

応援いただいた皆さまに心からお礼申し上げます。より上位を目指して2015の大会に挑みたいと思いますので、今後も応援よろしくお願ひします。

●放送・演劇同好会

お昼の放送「All Noon Japan」をナビゲートしています。週5回の放送を目指して、日々奮闘中です。今年の学園祭では舞台「Love&Banana's Reception」を演じました。誰かが誰かを好きだっけって気持ちはとても素敵な感情だけれど、その好きだっけって気持ちに人に迷惑をかけることってありますよね。既成の台本でしたが、上手に表現できていたようです。台本・舞台製作や音響・照明まで手を出すことはできませんでしたが、いずれ地区大会に出場できたら嬉しいですね。

顧問 増田 宇

●パソコン部

平成26年度パソコン研究部は、外部の各種大会に参加することを目標に活動をしてきました。残念ながら参加には至りませんでしたが、部活動内で各自が作成したプログラムの品評会を行ってお互いに批評しながら、よい作品に仕上げる努力をしてきました。

平成26年度も引き続き、外部の大会に参加すべく努力を続けていくと共に昨年は不調であった「高齢者インターネット教室」を数多く実施できるように工夫をしています。昨年度多くの先輩方が卒業されて部員数が激減してしまいましたが、新入部員を迎えて頑張りたいと思います。

●ロボット研究部

ロボット研究部の活動は、ロボット製作・各種大会への出場と小学生対象のものづくり教室の開催です。

8月に行われた、「電子ロボと遊ぶアイデアコンテスト」は、レゴマインドストームを使用した大会です。レゴマインドストームは、レゴブロックがベースになっているので、初心者にも作りやすくなっています。

2月に行われた高校生パフォーマンスロボット競技大会は、材料の二部にリサイクル品(缶・ペットボトルなど)を使い、各学校でオリジナルのロボットを製作します。競技は、ライントレース走行の正確さと、コース上での自由なパフォーマンスによる総合得点を競うものです。

今年の大会は、パフォーマンス部門では、タイム制御がうまくいかないで、思い通りの動作ができませんでしたが、走行部門では、安定したライントレースができ、総合得点で4位に入賞することができました。



●美術部

十六年度から顧問が変わり、私も新入生と同じく「年生」として美術に関わり始めました。二、三年生の協力のお陰でなんとか一年間やってこられたことに感謝しつつ、新年度の新たな出会いに期待しています。

美術はかつて木炭デッサンや油絵も扱っていたと聞いていますが、現在ではイラスト作成が中心になっています。自分が好きなもの好きに描くのも楽しいですが、ある程度基礎があった方がレベルの高い楽しみ方ができるのでは、とポーズ集の模写やお互いにモデルを交代して二分で大雑把なスケッチを行う、などの練習も取り込んでみました。また、パソコンと液晶タブレットを使ったデジタルイラストにも挑戦できるよう、環境を整えているところです。

ボランティア活動として、夏休みに小学生対象の万華鏡づくりや、秋、冬に地域イベントの手伝いもしてくれました。普段は穏やかですが、とても頼りになる生徒たちです。

●模型部

二十六年度の模型部は新入生にも恵まれ、和気あいあいと活動することができたと思います。顧問も変わり「年生」として勝手わからないことも多かったのですが、二、三年生たちが協力してくれ、非常に助かりました。生徒たちが取り組んでいるプラモデルは、依然ガンダムシリーズが人気ですが近年のゲームやアニメの影響からか戦車や軍艦といったミリタリーものも増えてきています。非常

に細かいパーツも多く、神経を使う作業ですが、リアルに塗装し、完成した時の達成感は一とおおでしょう。出来上がった模型を私に見せに来る嬉しそうな生徒たちの顔を見ると、顧問としても負けていられない、と昔の模型好きの血が騒ぎ、余裕のある時には彼らと一緒に「いち部員」として模型製作に励んでしまっています。

地域のもづくりイベントやお祭りの手伝いなども行っており、コミュニケーション力も磨いていけたらと考えています。

●科学研究同好会

平成26年度で科学研究同好会は創部から5年が経過しました。創部当初は10名程度であった部員も今では30名近くなり、活動も非常に活発なものにすることができました。本年度は学園祭では大きなドーム状のプラネタリウムを作成し、来場者を感じさせました。入試説明会では中学生や保護者を対象に演示実験を行いました。新入生でこの実験が印象に残っている者も多いようです。そして発表会もこれまで以上にレベルの高い内容で参加することができました。特に2年ぶりの参加を果たしたジュニア農芸化学会全国大会では、スベリヒユという植物由来の凝集剤作りをテーマに発表をしました。これは東京海洋大学機能材料学研究室助教の先生の指導の下で続けてきたもので、先輩から後輩へ引き継がれて実験を続けてきたことによりようやく効果を確立することができたものです。今後多くの実験・研究を行い、様々な人に発信をしていきたいと思います。

●ブラスバンド部

ブラスバンド部は昨年度、1年生15名を迎えた合計31名で活動をスタートしました。昨年度の活動の様子を簡単に紹介させていただきます。

新体制で最初の行事は6月の体育祭です。昨年度はももクロやデイズ・ド・メドレーのダンプレ（ダンス&プレイ、踊りながら演奏する）にチャレンジしました。7月〜9月は野球部



第2回定期演奏会

の応援、吹奏楽コンクール、学園祭と学校行事で演奏する一方、大森夢フェアや大田市場まつりなど地域イベントにも参加しました。10月・11月も商店街パレードや折り紙ヒーローキ大会、福祉作業所のふれあいまつりなどのイベントで演奏。12月からは、ブラスバンド部最大の行事である定期演奏会に向け本格的に練習を開始しました。

そして3月28日に開催された「第2回定期演奏会」、第一部では吹奏楽の定番曲、第二部はステージドリル（動きながら演奏する）、第三部ではポップス曲と、3部にわたり全11曲を披露しました。また第三部はOB・OGも加わり、部員たちにとっても印象に残る演奏会となりました。当日は多くのみなさまにお越しいただき本当にありがとうございました。

昨年度もブラスバンド部の活動を通じて部員たちは様々な年代・職業の方々と関わり、たくさんのご縁を学ぶことができました。多くの方がブラスバンド部の活動を支えてくださったことに感謝しております。今年度も皆さまに喜んでいただけるような演奏活動をしたいと思っております。

(顧問 石川和弘)

●ボランティア活動車いすメンテナンス

平成25年度、車いすメンテナンスは3年生7人、2年生1人、1年生5人の計13名で活動を行いました。6月に本校で行った「車いす修理会」では、スリランカに20台、さらに11月にも「車いす修理会」を行い、フィリピンに15台の車いすを寄贈しました。この数



字は本校での台数であり、神奈川工科大へ行き、大学生と一緒に修理した車いすも100台近くあります。とてもよい経験ができたと感じています。

また、海外への寄贈以外にも月に一度、特別老人ホームでの修理活動も行いました。お年寄りと一緒に修理しながら楽しさ、ありがたさという感謝の声をいただくなど気持ちの面でも達成感を得られたと思います。今年度も一つひとつの活動に精一杯取り組み、心身の成長を図りたいと思います。これからもよろしくお願ひします。